

IBD患者白書2018 結果報告書 ダウンロード版

2018年4月9日
株式会社QLife

- 調査主体： 株式会社QLife(キューライフ)
- 実施概要：
 - (1) 調査対象： 潰瘍性大腸炎またはクローン病と診断された患者
 - (2) 有効回収数： 231人
 - (3) 調査方法： インターネット調査
 - (4) 調査時期： 2017年12月1日～ 2月28日

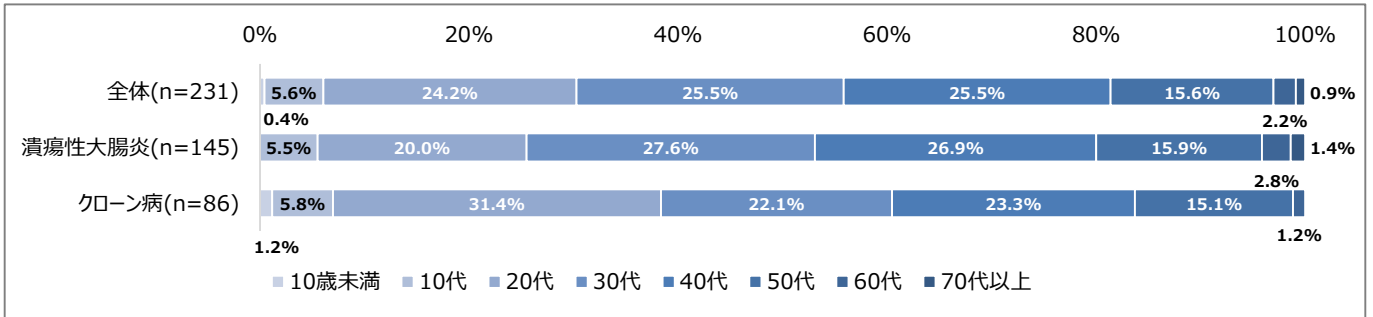
報道・発表等で、グラフ等調査結果を引用する場合は、必ず下記の出典・リンクを記載してください。
IBDプラス「IBD白書2018」<https://ibd.qlife.jp/>

調査実施概要

▼調査対象内訳

(1) 年代

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
全体(n=231)	1 0.4%	13 5.6%	56 24.2%	59 25.5%	59 25.5%	36 15.6%	5 2.2%	2 0.9%	231 100.0%
潰瘍性大腸炎(n=145)	0 0.0%	8 5.5%	29 20.0%	40 27.6%	39 26.9%	23 15.9%	4 2.8%	2 1.4%	145 100.0%
クローン病(n=86)	1 1.2%	5 5.8%	27 31.4%	19 22.1%	20 23.3%	13 15.1%	1 1.2%	0 0.0%	86 100.0%

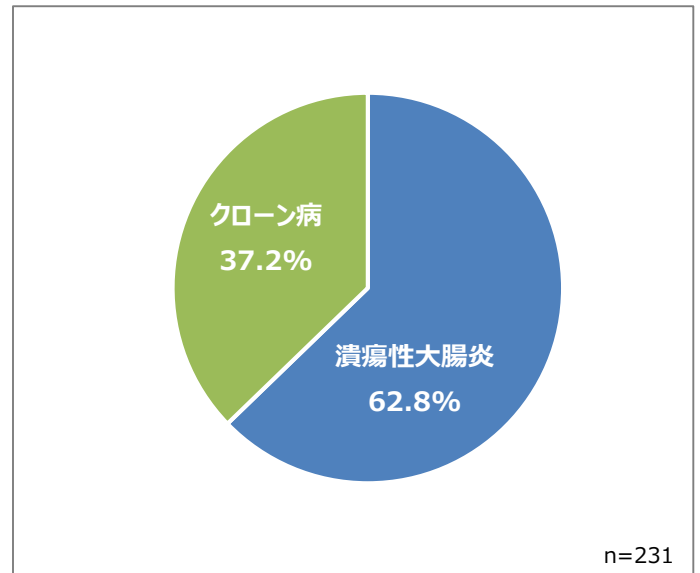


(2) 居住地

	全体 (n=231)	潰瘍性 大腸炎 (n=145)	クローン病 (n=86)	全体 (n=231)	潰瘍性 大腸炎 (n=145)	クローン病 (n=86)							
北海道	10	6	4	4.3%	4.1%	4.7%	島根県	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
青森県	1	1	0	0.4%	0.7%	0.0%	岡山県	6	3	3	2.6%	2.1%	3.5%
岩手県	1	1	0	0.4%	0.7%	0.0%	広島県	3	0	3	1.3%	0.0%	3.5%
宮城県	2	0	2	0.9%	0.0%	2.3%	山口県	1	1	0	0.4%	0.7%	0.0%
秋田県	4	1	3	1.7%	0.7%	3.5%	徳島県	2	1	1	0.9%	0.7%	1.2%
山形県	1	0	1	0.4%	0.0%	1.2%	香川県	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
福島県	3	1	2	1.3%	0.7%	2.3%	愛媛県	1	0	1	0.4%	0.0%	1.2%
茨城県	1	0	1	0.4%	0.0%	1.2%	高知県	1	1	0	0.4%	0.7%	0.0%
栃木県	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	福岡県	10	5	5	4.3%	3.4%	5.8%
群馬県	1	1	0	0.4%	0.7%	0.0%	佐賀県	1	1	0	0.4%	0.7%	0.0%
埼玉県	19	10	9	8.2%	6.9%	10.5%	長崎県	4	3	1	1.7%	2.1%	1.2%
千葉県	8	2	6	3.5%	1.4%	7.0%	熊本県	2	2	0	0.9%	1.4%	0.0%
東京都	41	30	11	17.7%	20.7%	12.8%	大分県	2	2	0	0.9%	1.4%	0.0%
神奈川県	27	18	9	11.7%	12.4%	10.5%	宮崎県	3	1	2	1.3%	0.7%	2.3%
新潟県	1	1	0	0.4%	0.7%	0.0%	鹿児島県	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
富山県	6	6	0	2.6%	4.1%	0.0%	沖縄県	1	0	1	0.4%	0.0%	1.2%
石川県	4	4	0	1.7%	2.8%	0.0%	総数	231	145	86	100.0%	100.0%	100.0%
福井県	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%							
山梨県	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%							
長野県	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%							
岐阜県	6	4	2	2.6%	2.8%	2.3%							
静岡県	3	3	0	1.3%	2.1%	0.0%							
愛知県	17	8	9	7.4%	5.5%	10.5%							
三重県	3	3	0	1.3%	2.1%	0.0%							
滋賀県	3	1	2	1.3%	0.7%	2.3%							
京都府	2	2	0	0.9%	1.4%	0.0%							
大阪府	17	11	6	7.4%	7.6%	7.0%							
兵庫県	10	8	2	4.3%	5.5%	2.3%							
奈良県	2	2	0	0.9%	1.4%	0.0%							
和歌山県	1	1	0	0.4%	0.7%	0.0%							
鳥取県	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%							

Q.診断された病名を教えてください

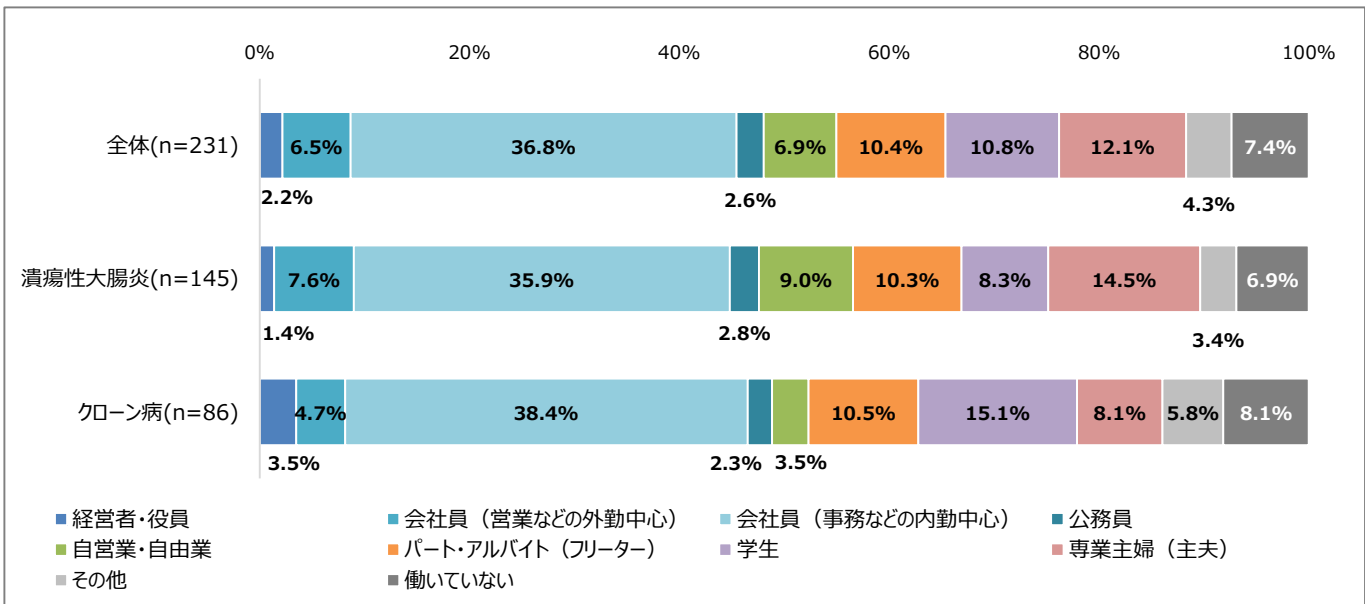
n=231		(SA)	
	n	%	
潰瘍性大腸炎	145	62.8%	
クローン病	86	37.2%	
総数	231	100.0%	



Q.職業を教えてください

(SA)

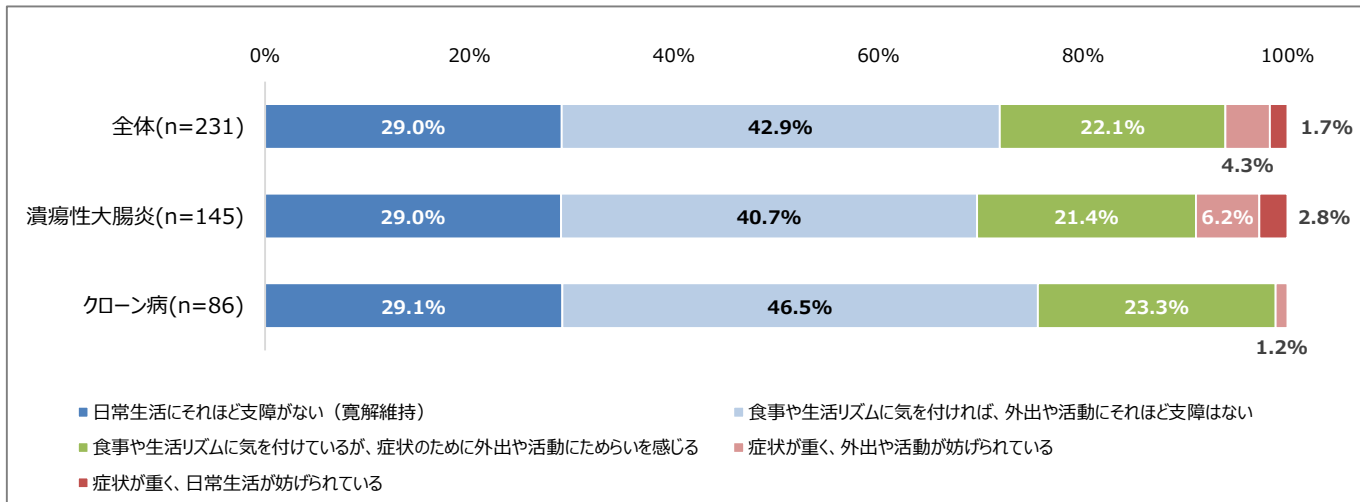
	経営者・役員	(営業などの外勤中心) 会社員	(事務などの内勤中心) 会社員	公務員	自営業・自由業	アルバイト・フリーター	学生	専業主婦 (主夫)	その他	働いていない	n	%
全体(n=231)	5 2.2%	15 6.5%	85 36.8%	6 2.6%	16 6.9%	24 10.4%	25 10.8%	28 12.1%	10 4.3%	17 7.4%	231	100.0%
潰瘍性大腸炎(n=145)	2 1.4%	11 7.6%	52 35.9%	4 2.8%	13 9.0%	15 10.3%	12 8.3%	21 14.5%	5 3.4%	10 6.9%	145	100.0%
クローン病(n=86)	3 3.5%	4 4.7%	33 38.4%	2 2.3%	3 3.5%	9 10.5%	13 15.1%	7 8.1%	5 5.8%	7 8.1%	86	100.0%



報道・発表等で、グラフ等調査結果を引用する場合は、必ず下記の出典・リンクを記載してください。
IBDプラス「IBD白書2018」<https://ibd.qlife.jp/>

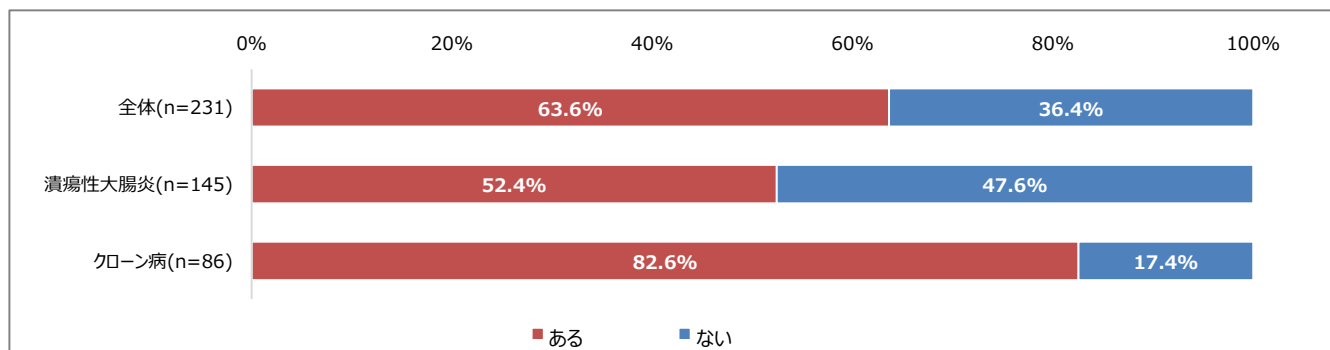
Q.潰瘍性大腸炎やクローン病のIBDの症状は、どれくらい日常生活に影響を与えていますか

「食事や生活リズムに気を付ければ、外出や活動にそれほど支障はない」が最も多く42.9%、次いで「日常生活にそれほど支障はない」が29.0%だった。28.1%が日常生活になんらかの影響やためらいを感じていた。



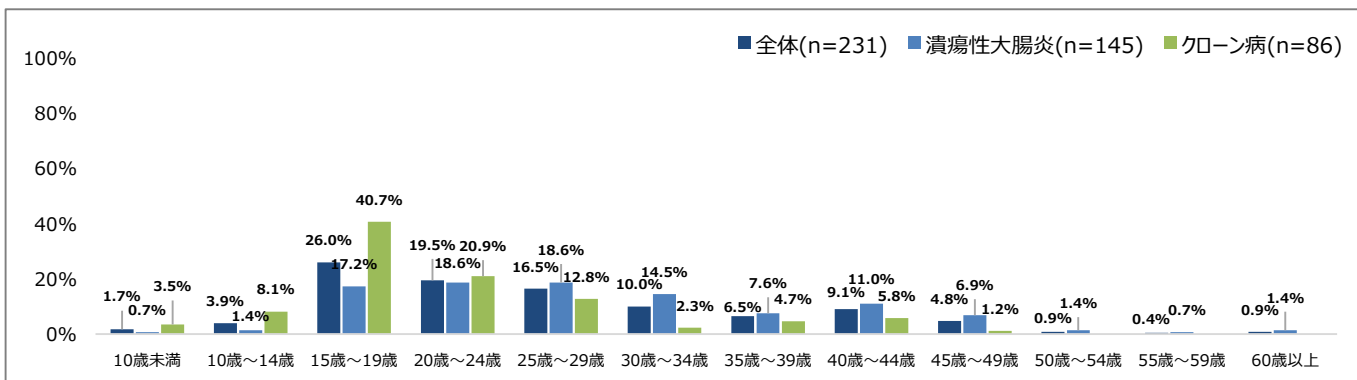
Q.潰瘍性大腸炎やクローン病の症状が悪化して入院をしたことがありますか

63.6%が「入院経験がある」と回答した。



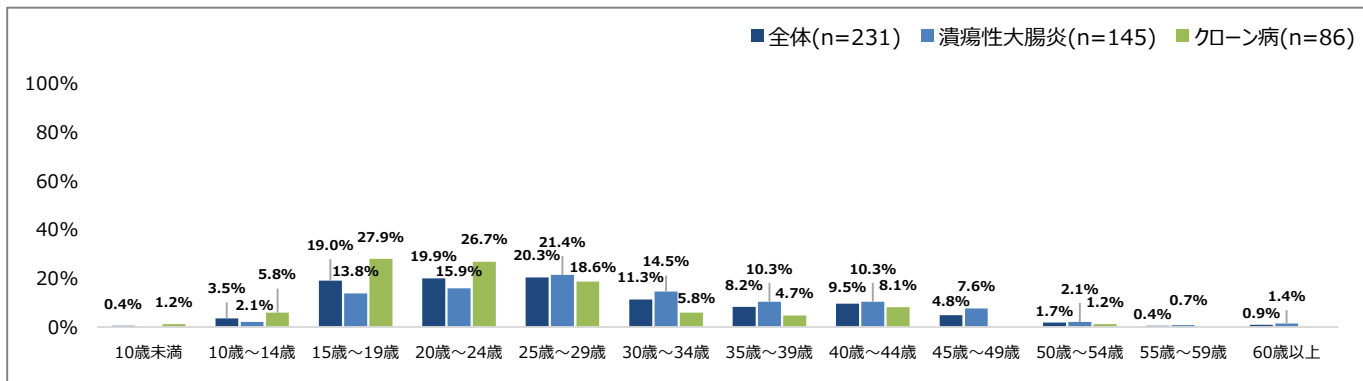
Q.最初に潰瘍性大腸炎やクローン病の症状が現れたのはいつですか

「15~19歳」が最も多く26.0%、次いで「20~24歳」(19.5%)、「25~29歳」(16.5%)だった。



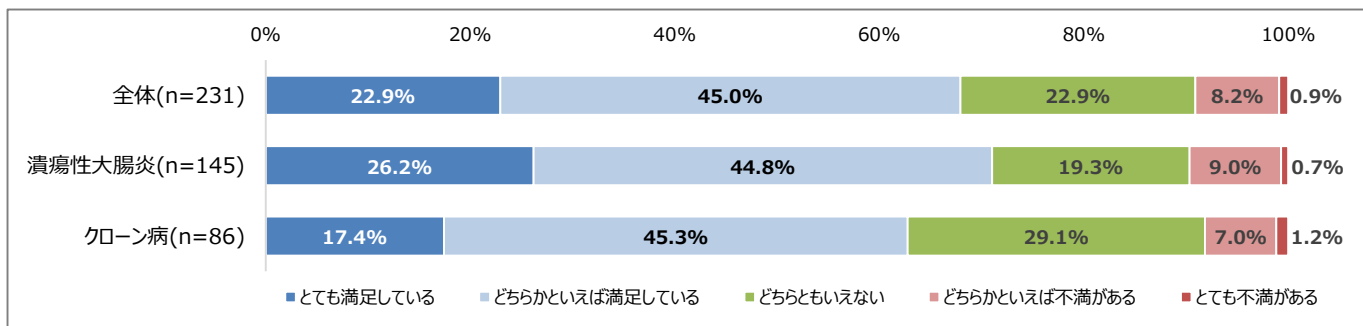
Q.潰瘍性大腸炎やクローン病と診断された時の年齢を教えてください

「25～29歳」が最も多く20.3%、次いで「20～24歳」（19.9%）、「15～19歳」（19.0%）だった。



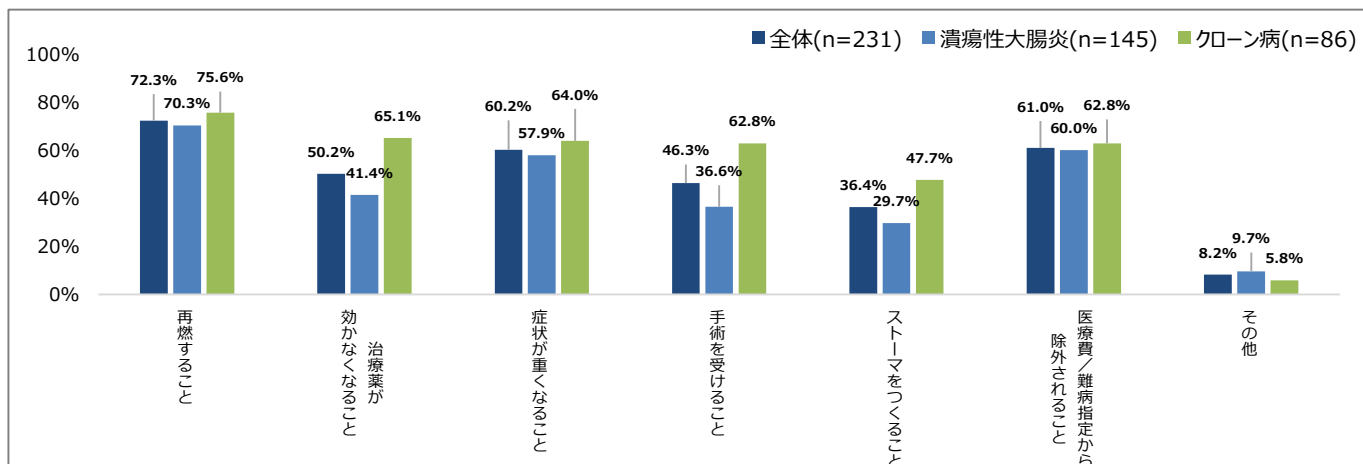
Q.現在受けている、潰瘍性大腸炎やクローン病の治療に満足していますか

67.9%が「とても満足」「どちらかといえば満足」と回答。「不満がある」と回答したのは9.1%だった。



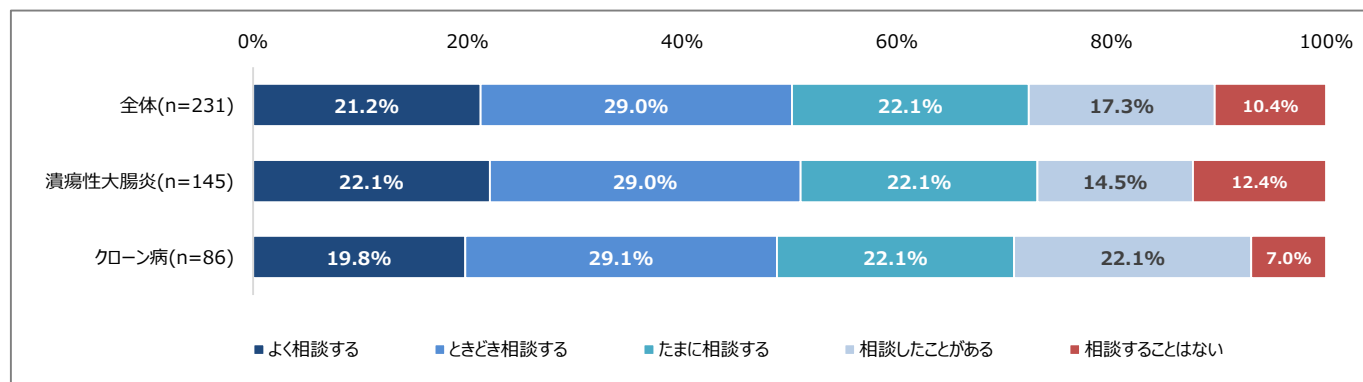
Q.潰瘍性大腸炎やクローン病の治療について、将来、不安を感じるものを教えてください

「再燃すること」が最も多く72.3%、次いで「医療費／難病指定から除外されること」（61.0%）、「症状が重くなること」（60.2%）だった。その他の意見には「がんになること」「働けなくなること」があった。



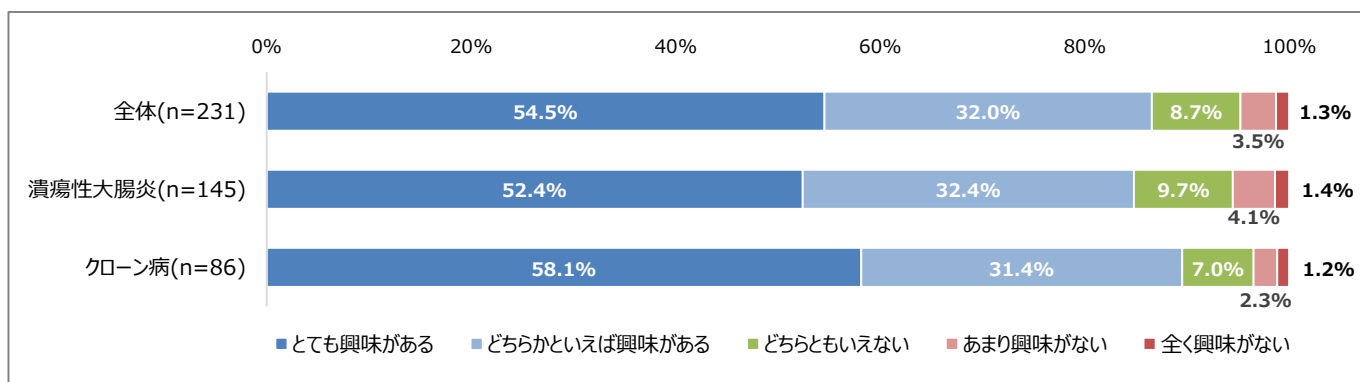
Q.潰瘍性大腸炎やクローン病の治療について、医師や看護師など医療スタッフに相談したことはありますか

89.6%が「医療スタッフに相談する」、21.2%が「よく相談する」と回答した。「相談することはない」と回答した患者も10.4%いた。



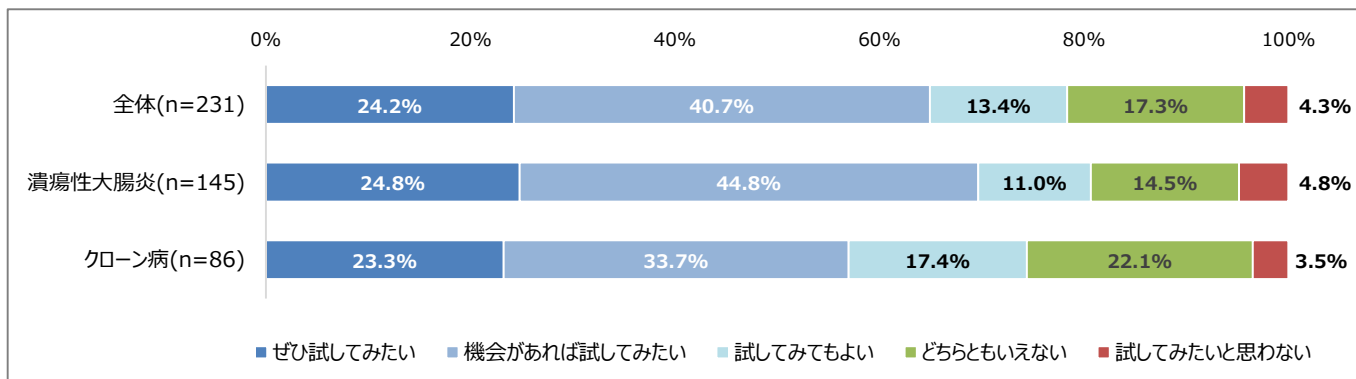
Q.潰瘍性大腸炎やクローン病の新しい治療法・治療薬の情報に興味がありますか

86.5%が「とても興味がある」「どちらかといえば興味がある」と回答した。



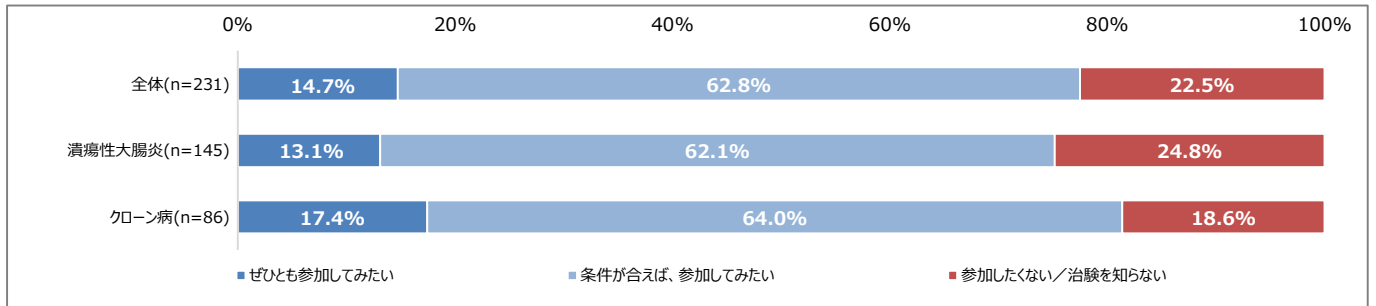
Q.潰瘍性大腸炎やクローン病の新しい治療法・治療薬を試してみたいと思いますか

64.9%が「ぜひ試してみたい」「機会があれば試してみたい」と回答した。



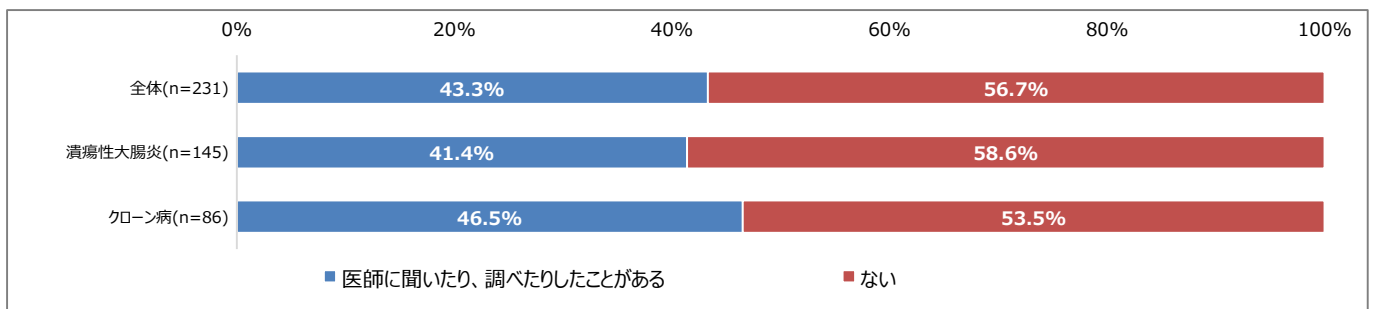
Q.潰瘍性大腸炎やクローン病の治験に参加してみたいですか

77.5%が「ぜひとも」「条件が合えば」治験に参加してみたいと回答した。



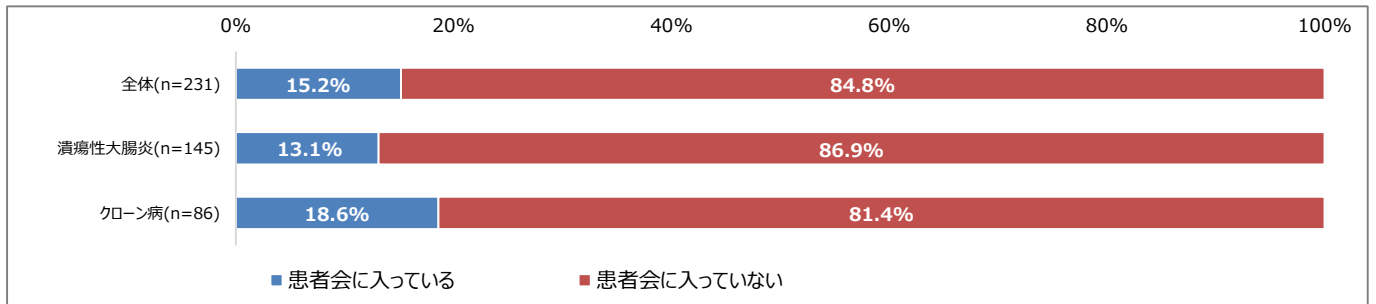
Q.潰瘍性大腸炎やクローン病の治験の情報を医師に聞いたり、インターネットなどで調べたりしたことはありますか

潰瘍性大腸炎やクローン病などのIBDの治験情報を調べたり聞いたりしたことが「ある」と回答したのは43.3%だった。



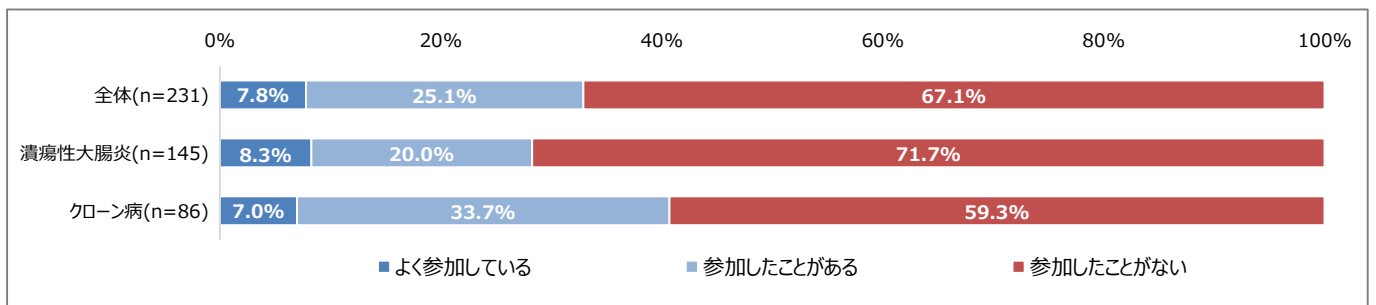
Q.IBDの患者会に加入していますか

15.2%が「患者会に加入している」と回答した。



Q.患者会や病院が主催する勉強会・交流会などに参加したことがありますか

32.9%が勉強会や交流会などに「参加したことがある」と回答した。

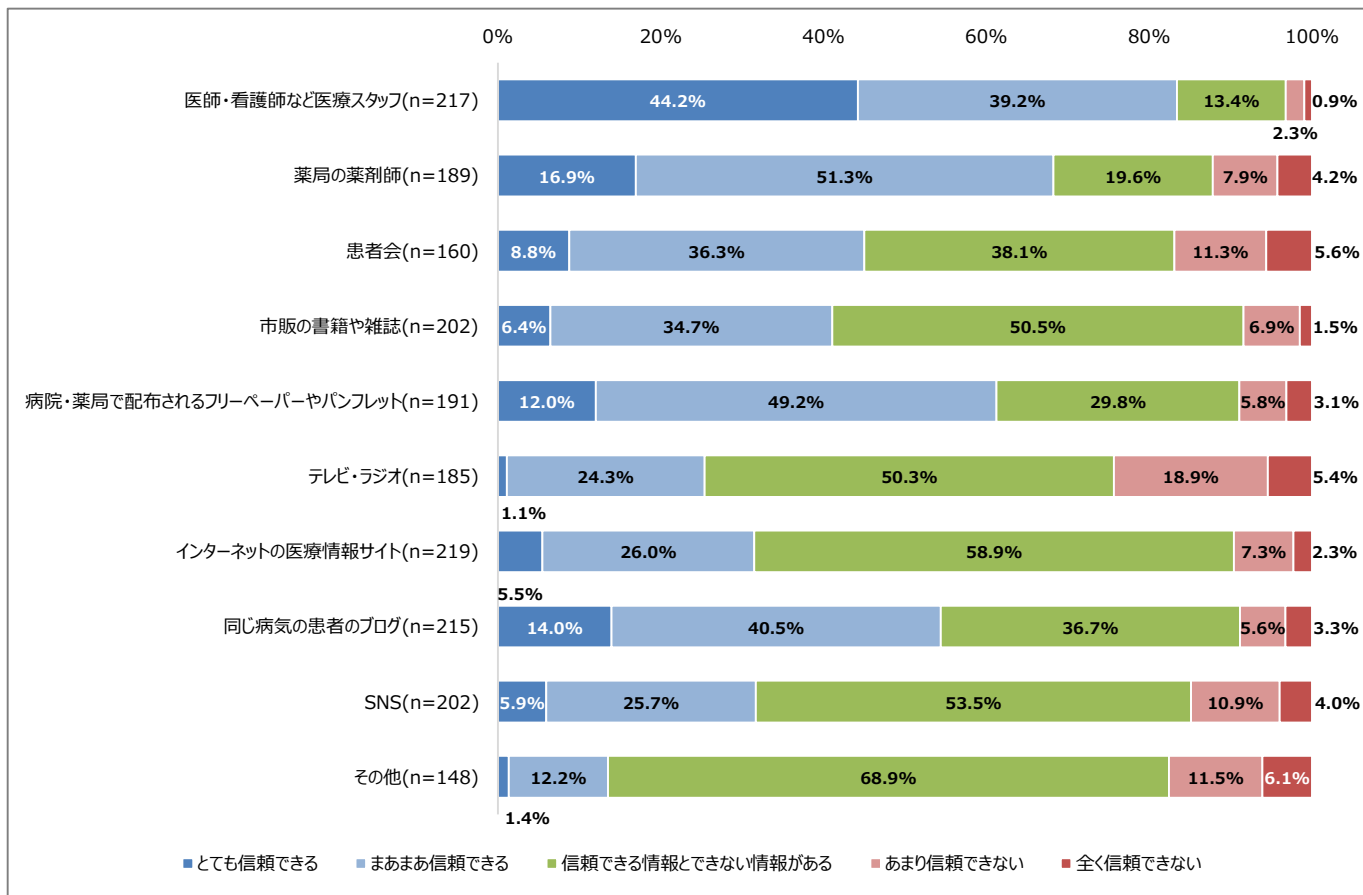


Q.潰瘍性大腸炎・クローン病に関する情報はどこから入手していますか

「とても信頼できる」情報源は「医師・看護師など医療スタッフ」が最も多く44.2%、次いで「薬局の薬剤師」（16.9%）、「同じ病気の患者のブログ」（14.0%）だった。一方、「あまり信頼できない」「全く信頼できない」情報源として最も多かったのが「テレビ・ラジオ」（24.3%）だった。

(MTSA)

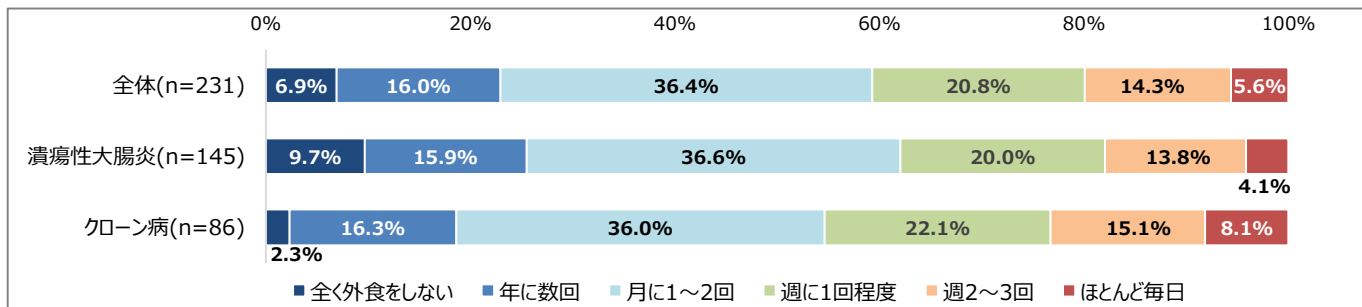
	信頼 でき ても	信 頼 で き る ま あ ま あ	い 情 報 と で き な い	信 頼 で き な い あ ま り	信 頼 で き な い 全 く	n %
医師・看護師など医療スタッフ(n=217)	96 44.2%	85 39.2%	29 13.4%	5 2.3%	2 0.9%	217 100.0%
薬局の薬剤師(n=189)	32 16.9%	97 51.3%	37 19.6%	15 7.9%	8 4.2%	189 100.0%
患者会(n=160)	14 8.8%	58 36.3%	61 38.1%	18 11.3%	9 5.6%	160 100.0%
市販の書籍や雑誌(n=202)	13 6.4%	70 34.7%	102 50.5%	14 6.9%	3 1.5%	202 100.0%
病院・薬局で配布されるフリーペーパーやパンフレット(n=191)	23 12.0%	94 49.2%	57 29.8%	11 5.8%	6 3.1%	191 100.0%
テレビ・ラジオ(n=185)	2 1.1%	45 24.3%	93 50.3%	35 18.9%	10 5.4%	185 100.0%
インターネットの医療情報サイト(n=219)	12 5.5%	57 26.0%	129 58.9%	16 7.3%	5 2.3%	219 100.0%
同じ病気の患者のブログ(n=215)	30 14.0%	87 40.5%	79 36.7%	12 5.6%	7 3.3%	215 100.0%
SNS(n=202)	12 5.9%	52 25.7%	108 53.5%	22 10.9%	8 4.0%	202 100.0%
その他(n=148)	2 1.4%	18 12.2%	102 68.9%	17 11.5%	9 6.1%	148 100.0%



報道・発表等で、グラフ等調査結果を引用する場合は、必ず下記の出典・リンクを記載してください。
IBDプラス「IBD白書2018」<https://ibd.qlife.jp/>

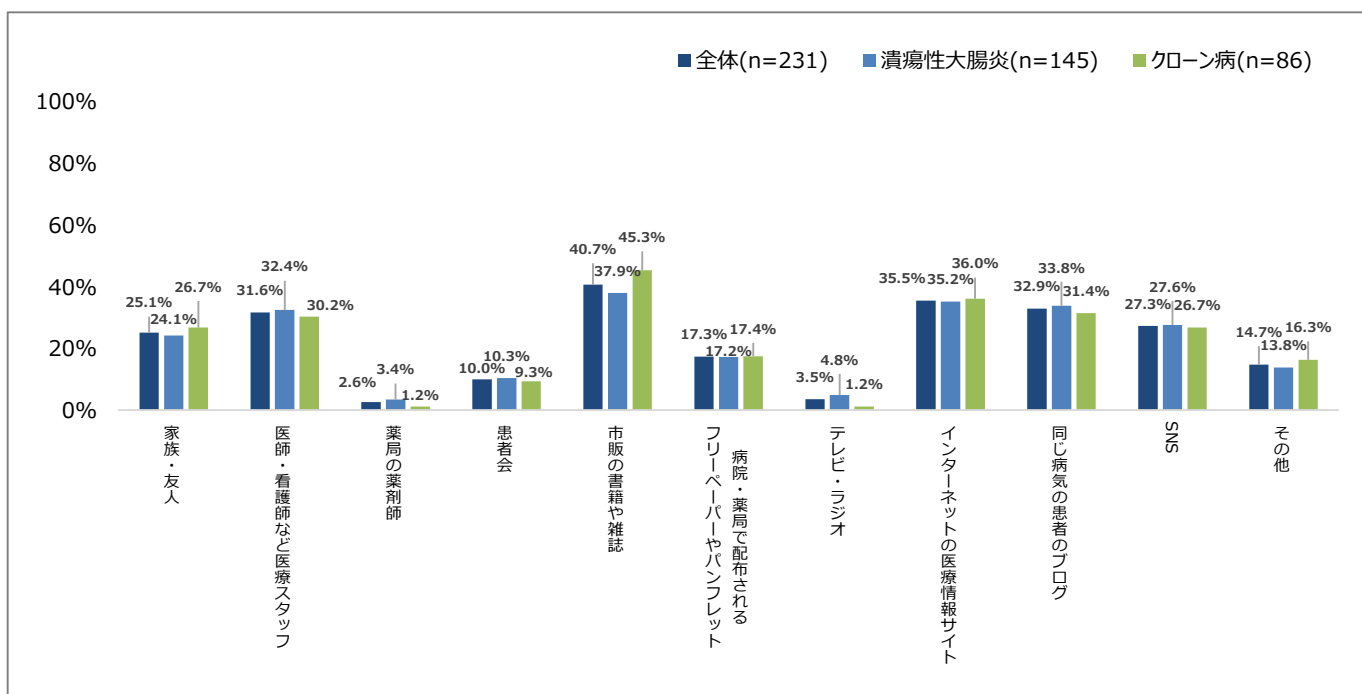
Q. 外食をする頻度はどのくらいですか

「月に1~2回」が最も多く36.4%、次いで「週に1回程度」(20.8%)、「年に数回」(16.0%)だった。



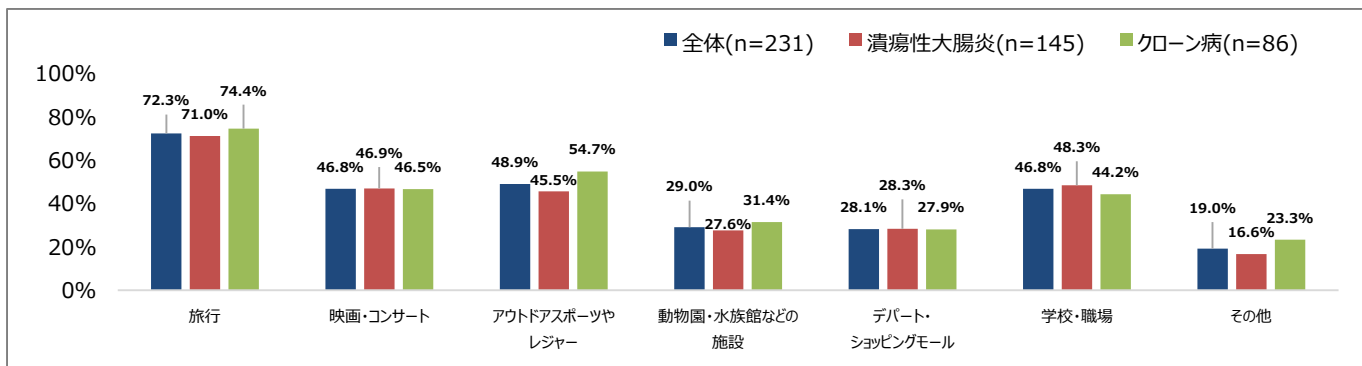
Q. 調理の際に参考になっている情報の入手経路について教えてください

「市販の書籍や雑誌」が最も多く40.7%、次いで「インターネットの医療情報サイト」(35.5%)、「同じ病気の患者のブログ」(32.9%)だった。



Q. トイレが心配になるのは、どんな時ですか

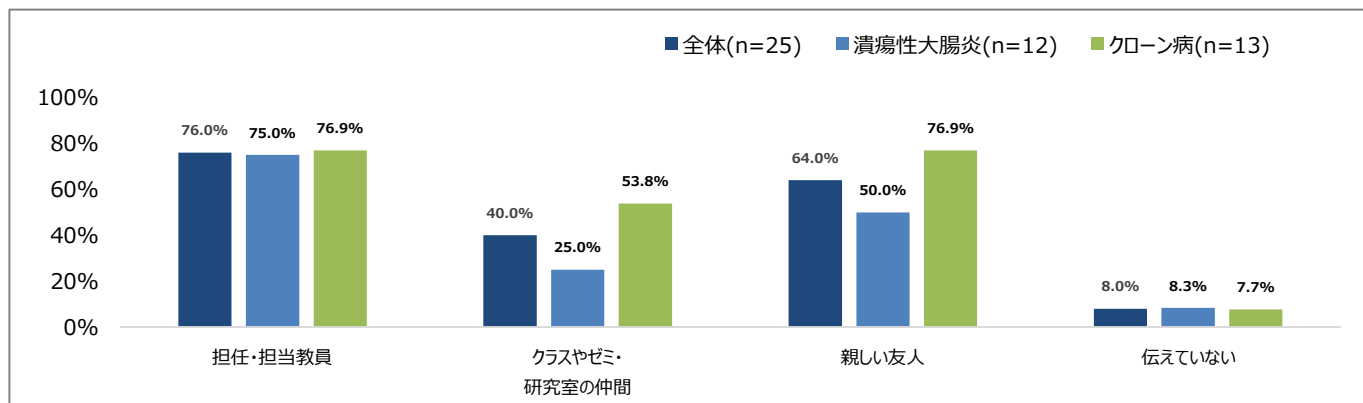
「旅行」が最も多く72.3%、次いで「アウトドアスポーツやレジャー」(48.9%)、「映画・コンサート」「学校・職場」(46.8%)となった。その他では「通勤・通学」「トイレが少ないところ」などが挙げられた。



報道・発表等で、グラフ等調査結果を引用する場合は、必ず下記の出典・リンクを記載してください。
IBDプラス「IBD白書2018」<https://ibd.qlife.jp/>

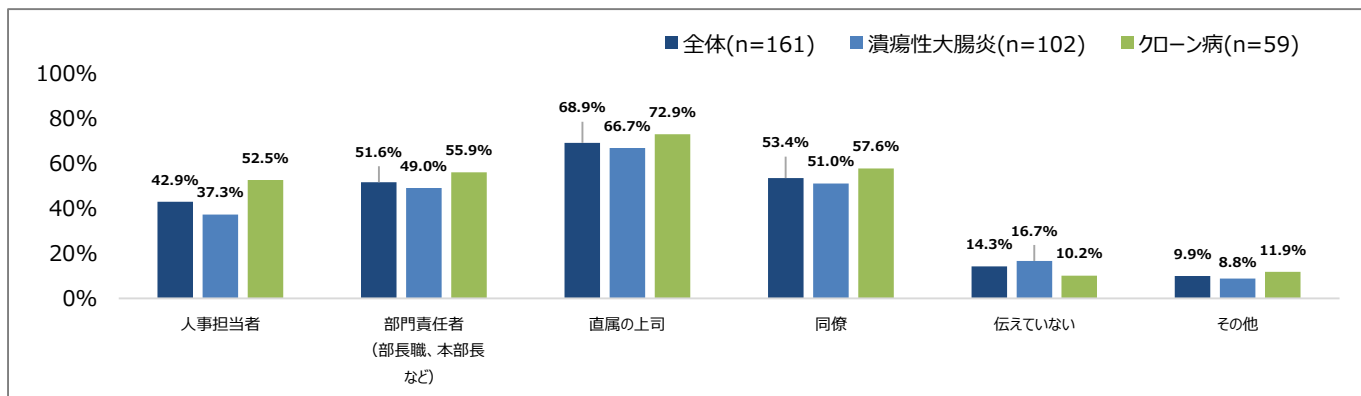
Q.病気について、学校に伝えていますか ※現在の職業が「学生」と答えた人のみ

「担任・担当教員」に伝えているのは76.0%だった。一方8.0%が「伝えていない」と回答した。



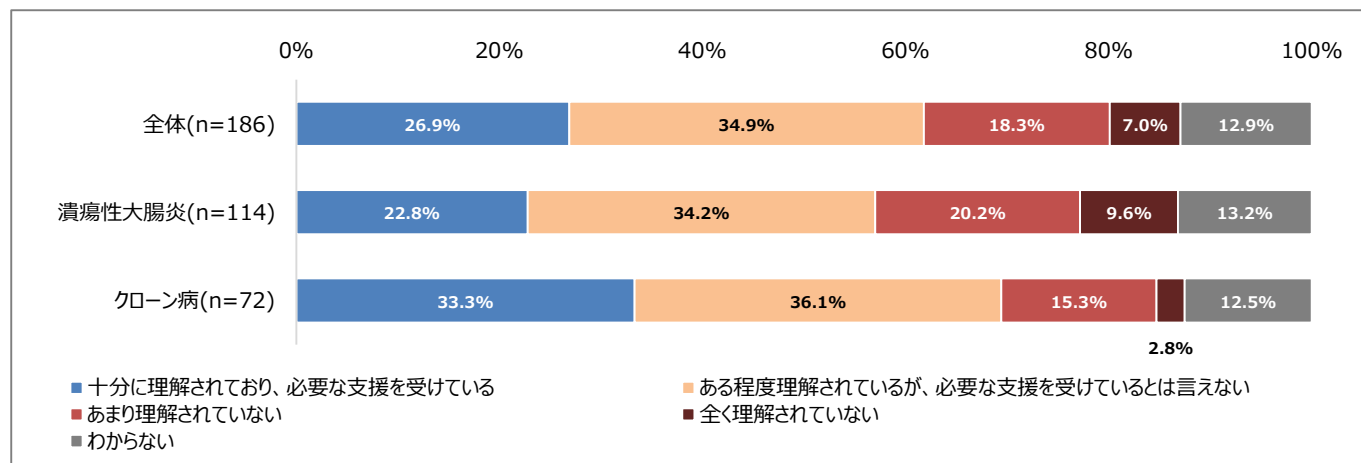
Q.病気について、職場に伝えていますか ※現在の職業が「学生」「専業主婦（主夫）」「働いていない」以外回答

「人事担当者」に伝えているのは42.9%、「同僚」に伝えているのは53.4%だった。一方、14.3%が「伝えていない」と回答した。

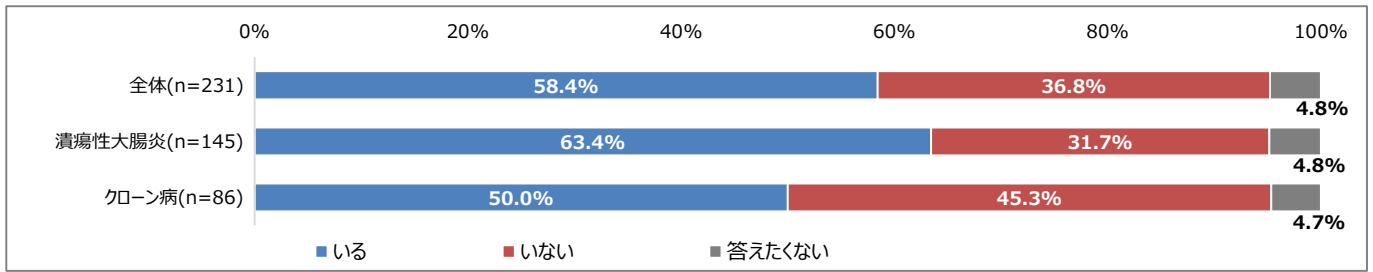


Q.学校や職場では、病気についてどのくらい理解されていると感じていますか ※現在の職業が「学生」「専業主婦（主夫）」「働いていない」以外回答

「十分に理解されており、必要な支援を受けている」と回答したのは26.9%だった。一方、「あまり理解されていない」「全く理解されていない」と25.3%が回答した。

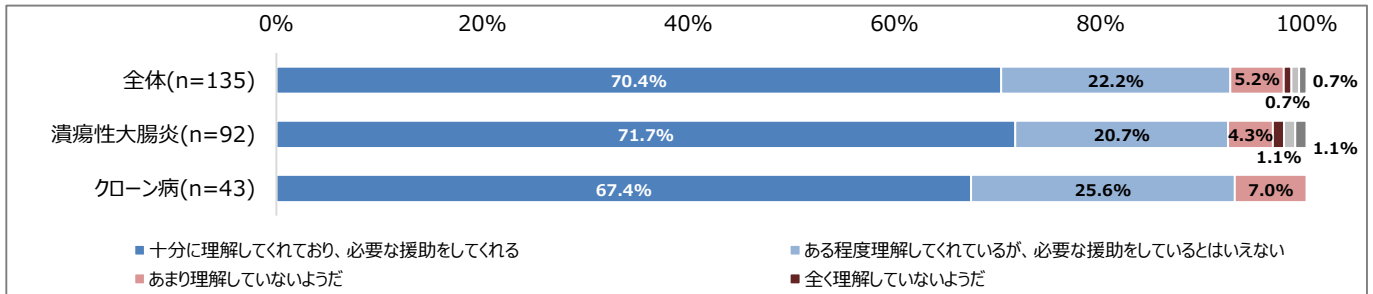


Q.恋人または伴侶などのパートナーはいますか



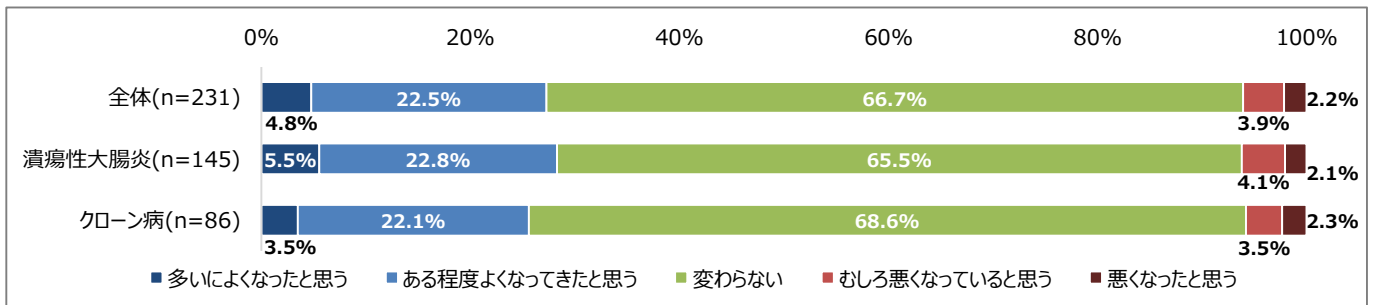
Q.パートナーは病気を理解していますか？ ※「パートナーがいる」と答えた人のみ

70.4%が「十分に理解してくれており、必要な援助をしてくれる」と回答した。一方、5.9%が「あまり」「全く」理解していないようだ、と回答した。



Q. 1年前と比較して、病気を持つ人への周囲の対応はよくなりましたか

「変わらない」が最も多く66.7%。「ある程度」「多いに」よくなっていると回答したのは27.3%だった一方、「悪くなっている」と回答したのは6.1%だった。



Q.病気を持つ人と一緒に社会活動を行ううえで、健康な人はどのように対応したらよいでしょうか

「病気であることには配慮してほしい」が最も多く44.2%、次いで「柔軟に対応してほしい」(26.8%)、「積極的に支援してほしい」(19.9%)だった。

